

2016年（平成28年） 11月18日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

11/3～11/10のNYMEX・WTIIは、トランプ氏米大統領当選の報道にも大きな変化はなく、44.07～45.27ドルの狭い範囲で推移した。

11月10日は、市場の主な関心は大統領選挙結果から供給過剰の動向に戻った形で、この日のIEA月報でOPECの10月産油量が日量3,383万バレルと過去最高を記録したことから、4営業日振りに反落した。12月限の終値は前日比0.61ドル安の44.66ドルだった。

週末11日も、前日のOPEC月報を背景に、11月30日の次回総会での減産実施への懐疑論の高まりもあって続落した。12月限は前日比1.25ドル安の43.41ドルで終了した。

週明け14日は、前週末の流れを受けて一時42.20ドルまで下がり、その後買い戻しがいったものの、3営業日続落した。12月限の終値は前日比0.09ドル安の43.32ドルとなった。

15日は、サウジのファリハ・エネルギー相のOPEC早期減産実施への前向き発言や、ロシアのノバク・エネルギー相の17～18日のドーハで開催されるOPEC関係者との協議への出席発表等を受けて、協調減産への期待感が膨らみ、4営業日振りに反発した。12月限の終値は2.49ドル高の45.81ドルと急伸した。

16日は、EIAによる米国石油在庫週報の市場予想を上回る原油の積み増しの報告、対ユーロのドル高進行に伴う原油の割高感等から、わずかに値下がりした。12月限は前日比0.24ドル安の45.57ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週42.20～43.20ドルの狭い範囲で推移した。10日は43.60ドル、11日は42.80ドル、14日は42.00ドル、15

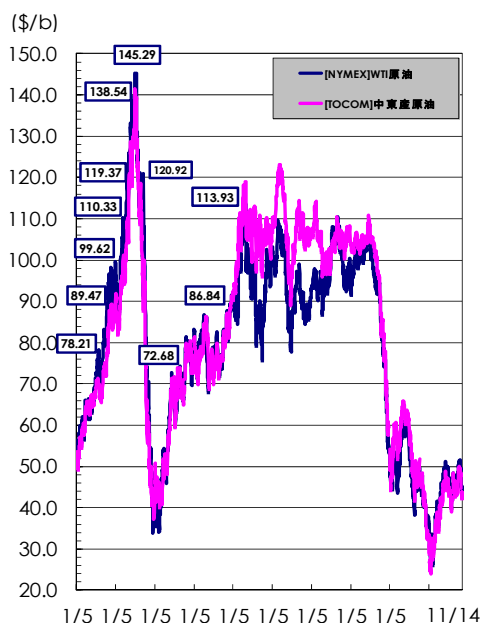
日は42.30ドル、16日は44.30ドルで推移した。

為替は、前週102.22～104.52円の範囲で推移した。米大統領選挙結果を受けて、10日は105.63円、11日は106.69円、14日は107.36円、15日は107.89円、16日は109.00円と大きく円安に動いた。

主要元売会社の11月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから3.0円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートは円安だったものの、原油調達コストは値下がりだった。

そのような中で、11月14日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値下がりの126.3円、軽油は横ばいの105.1円、灯油は0.1円値上がりの65.9円だった。ガソリンは6週振りの値下がり、軽油は6週振りに値上がり止まり、灯油は5週連続の値上がりだった。この週(11月第3週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きから3.0円の値下がりだった。

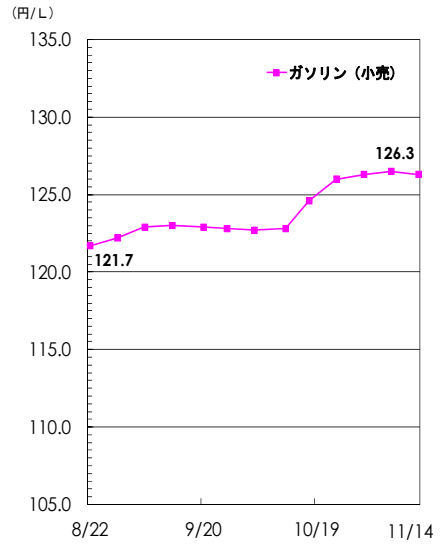
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/6～11/12	3,618 ▲46	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	85.8 ▲1.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/12	14,408 ▼-777	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/14	42.37 ▼-1.37	▲ 0.9
	WTII原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/14	43.32 ▼-1.57	▲ 1.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	44.70 ▼-0.68	▼ -3.21
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	28,630 ▼-344	▼ -7,531
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	101.82 ▼-0.29	▲ 18.17
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/14	108.36 ▼-3.40	▲ 15.18



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/6 ~ 11/12	998 ▼ -39	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	942 ▼ -21	▲ -	
	輸出	"	22 ▲ 22	▼ -	
	在庫	11/12	1,611 ▲ 34	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/8 ~ 11/14	41.6 ▼ -2.2	▼ -6.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/8 ~ 11/14	40.2 ▼ -1.0	▼ -6.9
		(TOCOM/中部)	11/14	40.0 ▼ -0.5	▼ -5.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/14	126.3 ▼ -0.2	▼ -5.3	

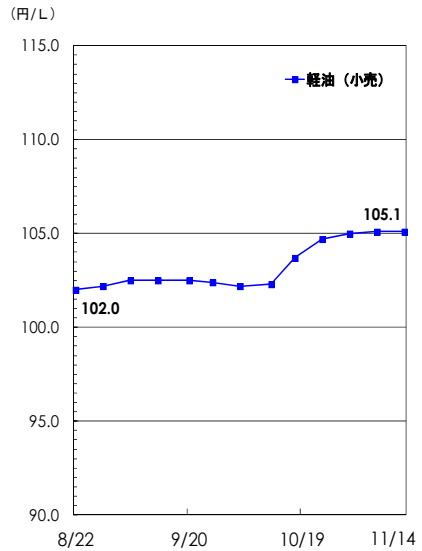
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

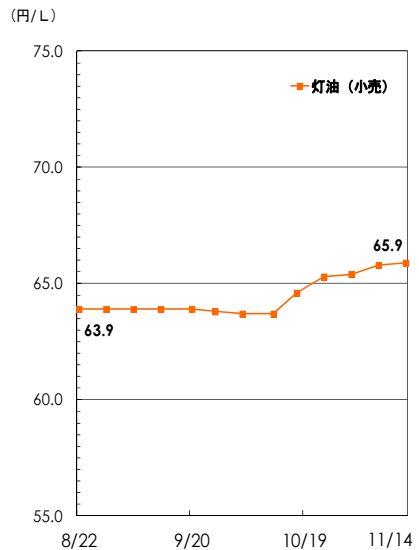
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/6 ~ 11/12	836 ▲ 37	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	696 ▼ -4	▲ -	
	輸出	"	168 ▲ 111	▲ -	
	在庫	11/12	1,428 ▼ -28	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/8 ~ 11/14	42.8 ▼ -0.7	▼ -8.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/8 ~ 11/14	41.8 ▲ 0.8	▼ -2.2
		(TOCOM/中部)	11/14	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/14	105.1 → 0.0	▼ -5.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/6 ~ 11/12	303 ▲ 36	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	378 ▲ 16	▲ -	
	輸出	"	26 ▼ -24	▲ -	
	在庫	11/12	2,474 ▼ -100	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/8 ~ 11/14	44.2 → 0.0	▼ -3.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/8 ~ 11/14	43.7 ▲ 0.2	▼ -3.9
		(TOCOM/中部)	11/14	43.8 ▲ 1.3	▼ -2.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/14	65.9 ▲ 0.1	▼ -10.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

16日のNYMEX市場のWTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、原油在庫が前週比530万バレル増と事前の市場予想(同150万バレル増)を大きく上回り、ガソリン等の製品在庫も総じて増加したことから、反落した。ただ、ドーハで17日開催予定のガス輸出国フォーラムに続く翌日のOPEC加盟国・非加盟国による非公式協議にサウジのファリハ、ロシアのノバク両エネルギー相が急きょ出席を決めるなど、協調減産に向けての期待感が価格を下支えた。

なお、ペーカー・ヒューズ社の米国稼働石油リグ数増加(452基、前週比2基増)の報告は大きな影響はなかった模様。12月限の終値は前日比0.24ドル安の45.57ドル、1月限の終値は前日比0.29ドル高の46.10ドルだった。

EIAによると11月14日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比4.9セント値下がりの1ガロン2.184ドル(62.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.7セント値下がりの2.443ドル(69.8円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値下がり、軽油は2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、11月6日～12日に休止したトッパー能力は、15.6万バレル/日と前週に比べて5.1万バレル減少。(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は361.8万klと、前週に比べ4.6万kl増加。前年に対しては4.3万klの増加。トッパー稼働率は85.8%と前週に対して1.1ポイントの増加、前年に対しては3.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/3.8%減、ジェット/19.7%増、灯油/13.4%増、軽油/4.6%増、A重油/12.0%減、C重油/0.0%。今週のC重油の輸入は3.6万kl(前週比3.5万kl減)。軽油の輸出は16.8万kl(前週比11.1万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、軽油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではC重油のみが減少し、その他の油種で増加した。原油価格が値下がりし、小売価格も6週振りに値下がりとなる中、ガソリンの出荷は94.2万kl(対前週2.2%減)と2週振りに前週比で減少、7週連続で前年比で増加となり、10週連続で100万klを割った。

ジェット11.3万kl(対前週47.8%増)、灯油37.8万kl(対前週4.4%増)、軽油69.6万kl(対前週0.6%減)、A重油22.7万

kl(対前週14.2%増)、C重油24.7万kl(対前週7.8%減)。

(単位:千KL)

	今週 (11/6 ~ 11/12)	前週 (10/30 ~ 11/5)	前週比	
ガソリン	942	963	▼ -21	(-2%)
ジェット燃料	113	77	▲ 36	(47%)
灯油	378	362	▲ 16	(4%)
軽油	696	700	▼ -4	(-1%)
A重油	227	198	▲ 29	(15%)
C重油	247	268	▼ -21	(-8%)
合計	2,603	2,568	▲ 35	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月12日時点の在庫はガソリン、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは161.1万kl、前週差3.4万kl増。前年に対しては8.6万kl少ない。

灯油は247.4万kl、前週差10.0万kl減。前年に対しては49.7万kl少ない。

軽油は142.8万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては12.5万kl少ない。

A重油は72.8万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては8.0万kl少ない。

C重油は191.5万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては29.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (11/12)	前週 (11/5)	前週比	
ガソリン	1,611	1,577	▲ 34	(2%)
ジェット燃料	1,021	1,045	▼ -24	(-2%)
灯油	2,474	2,574	▼ -100	(-4%)
軽油	1,428	1,456	▼ -28	(-2%)
A重油	728	752	▼ -24	(-3%)
C重油	1,915	1,864	▲ 51	(3%)
合計	9,177	9,268	▼ -91	(-1.0%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月8日から11月14日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円安で一部原油値下がり相殺したが、原油コストは値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン94~96円台、軽油42~43円台、灯油44円台でガソリンが値下がりした。海上スポット価格は、ガソリン94~95円台、軽油44~46円台、灯油44~45円台でガソリンが値下がり、軽油が値上がりした。先物価格はガソリン93~94円台、軽油41~43円台、灯油42~44円台だった。元売の卸価格は据え置きから3.0円の値下がりだった。

EMGマーケティングは11月17日、11月19日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、灯油を2.0円、その他の油種を1.0円値上げする旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値下がりし、卸価格も引き下げられたことから、製品スポット市況はガソリンを中心に軟調となった。週間のガソリン販売量は、10週連続で100万klを下回った。

11月第4週(11月17日~11月23日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月8日~11月14日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.2円、軽油は0.7円の値下がり、灯油は横ばいだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円の値下がり、灯油は0.3円、軽油は1.3円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.0円の値下がり、灯油が0.2円、軽油が0.8円の値上がりだった。OPECの減産に対する懐疑的な見方が続き、原油価格は値下がり、為替は円安で値下がり一部相殺したが、原油コストは値下がり、製品スポット価格もガソリンを中心に軟調となった。

11月第4週の大手元売の卸価格は、横ばいから3.0円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (11/8 ~ 11/14)	前週 (11/1 ~ 11/7)	前週比
スポット価格	レギュラー	41.6	43.8	▼ -2.2
	灯油	44.2	44.2	➡ 0.0
	軽油	42.8	43.5	▼ -0.7
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (11/8 ~ 11/14)	前週 (11/1 ~ 11/7)	前週比
先物価格	レギュラー	40.2	41.2	▼ -1.0
	灯油	43.7	43.5	▲ 0.2
	軽油	41.8	41.0	▲ 0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/8~11/14実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.2	▼ -1.0	▼ -1.6
灯油	➡ 0.0	▲ 0.2	▲ 0.1
軽油	▼ -0.7	▲ 0.8	➡ 0.0
A重油	▼ -0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月14日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値下がりの126.3円、軽油は前週比横ばいの105.1円、灯油は前週比0.1円値上がりの65.9円だった。ガソリンは6週振りの値下がり、軽油は6週振りに値上がり止まり、灯油は5週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは9府県、横ばいは8府県、値下がり30都道県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の120.8円(前週比0.7円安)、次が千葉県の122.2円(前週比0.1円安)だった。最高値は長崎県の134.9円(同0.2円安)だった。都道府県別で最も

値上がりしたのは、前週比0.5円高の大阪府(125.7円)で、最も値下がりしたのは0.9円安の神奈川県(123.2円)、宮城県(125.0円)、島根県(127.3円)だった。

原油コストはやや値下がりし、6週振りにガソリン小売価格は値下がりした。今週の元売会社の卸価格は据え置きから3.0円の値下がりだった。原油価格はさらに値下がりし、為替レートは円安に振れているものの、原油コストは値下がりとなったため、次週のガソリンの小売価格は値下がり、値上げが浸透していない灯油の小売価格は小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (11/14)	前週 (11/7)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	126.3	126.5	▼ -0.2	08/8/4 185.1
	灯油	65.9	65.8	▲ 0.1	08/8/11 132.1
	軽油	105.1	105.1	➡ 0.0	08/8/4 167.4

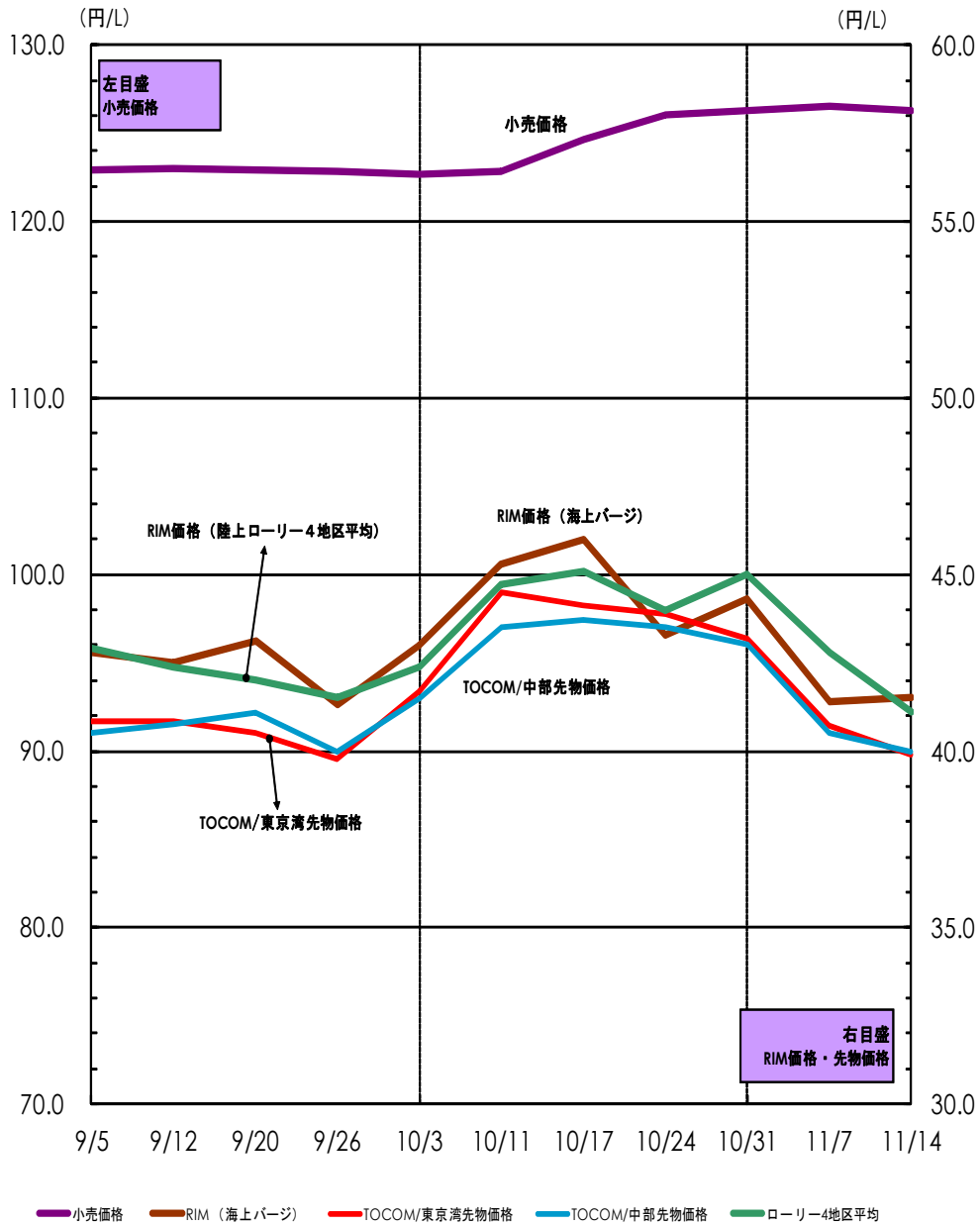
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/9/5 ~ 2016/11/14)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第33号)の公表は、11/25(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。